Racing Topics

★中央競馬ニュース　文・谷川善久★

●内田博幸騎手が１万3000回、丹内祐次騎手が１万回騎乗を達成

３月11日(土)の２回中山５日・第１レースでウィンクルティアラに騎乗した内田博幸騎手(美浦・フリー)は、史上24人目・現役16人目となるＪＲＡ通算１万3000回騎乗を達成しました。また同日の第７レースでマイネルカンパーナに騎乗した丹内祐次騎手(美浦・フリー)は、史上49人目・現役33人目となるＪＲＡ通算１万回騎乗を達成しました。

●小林勝太騎手がＪＲＡ初勝利をあげる

３月12日(日)の２回中山６日・第12レースではアメトリーチェが１着となり、同馬に騎乗した小林勝太騎手(美浦・小野次郎厩舎)はＪＲＡ初勝利をあげました。３月４日(土)の初騎乗から数えて10戦目。今年デビューの新人騎手では初勝利一番乗りとなります。

●矢作芳人調教師がＪＲＡ通算800勝を達成

３月12日(日)の２回中京２日・第９レースとして行われた岡崎特別ではスコールユニバンスが１着となり、同馬を管理する矢作芳人調教師(栗東)は、史上40人目・現役６人目となるＪＲＡ通算800勝(延べ8166頭目)を達成しました。

●ディープインパクト産駒が史上最速で通算2700勝に到達

３月12日(日)の２回中山６日・第10レースとして行われた東風Ｓ(Ｌ)ではラインベックが優勝し、ディープインパクト産駒のＪＲＡ勝利数が2700勝となりました。史上２頭目の記録で、産駒初出走の日から数えて12年８か月21日での2700勝達成は、サンデーサイレンス産駒の13年７か月17日を上回る史上最速記録となります。

●ハーツクライが死亡

３月９日(木)、ハーツクライ(牡22歳)が死亡しました。同馬は2005年有馬記念(ＧⅠ)、2006年ドバイシーマクラシック(Ｇ１)を制するなどＪＲＡ通算17戦４勝・海外２戦１勝の成績を残し、2005年にはＪＲＡ賞最優秀４歳以上牡馬を受賞。引退後は北海道安平町の社台スタリオンステーションで種牡馬として供用され、ジャスタウェイ、スワーヴリチャード、リスグラシュー、ドウデュースといったＧⅠウイナーを送り出してきました。2020年の種牡馬引退後も同所で繋養され、余生を送っていました。

★地方競馬ニュース　文・宇田川淳★

●グロリアムンディがダイオライト記念(船橋)を圧勝、重賞初制覇

ダイオライト記念(JpnⅡ、３月15日、船橋、2400㍍)は、７番手から内を通って追い上げたグロリアムンディ(川田将雅騎手、牡５歳、父キングカメハメハ)が２周目４コーナーで抜け出して後続を９馬身引き離し、１番人気に応えました。途中から逃げたテリオスベルが３番人気のメイショウフンジンを抑えて２着に粘り、２番人気のペイシャエスは差のある５着に終わっています。

●黒船賞(高知)で人気のシャマルが４度目の重賞勝ち

黒船賞(JpnⅢ、３月14日、高知、1400㍍)は、５番手を進んだ１番人気のシャマル(川田将雅騎手、牡５歳、父スマートファルコン)が４コーナーで内から先頭に立つと、ヘリオスに３馬身差を付けて楽勝。２番人気の昨年の覇者イグナイター(兵庫)は３着、サクセスエナジーは４着、ラプタスは５着、逃げた３番人気のケイアイドリーは８着に沈みました。

●名古屋大賞典(名古屋)は圧倒的人気のハギノアレグリアス

名古屋大賞典(JpnⅢ、３月16日、名古屋、2000㍍)は、単勝1.2倍という圧倒的な支持を集めたハギノアレグリアス(川田将雅騎手、牡６歳、父キズナ)が６番手追走から差を詰め、ケイアイパープルとの直線での競り合いをアタマ差で制して初の重賞タイトルを獲得。３番人気のバーデンヴァイラーは３着、逃げたアルサトワは４着、２番人気のニューモニュメントは５着でした。なお、川田騎手は３日連続のダートグレード競走優勝を果たしています。

★海外競馬ニュース　文・秋山響★

●Ｇ１ニューマーケットＨ～インシークレットが制す

現地３月11日にオーストラリア・ヴィクトリア州のフレミントン競馬場で行われたニューマーケットＨ(３歳上、芝1200㍍)は、この３レース前に落馬負傷したＪ.カー騎手に替わって手綱を取ったＤ.ホランド騎手を背に後方でレースを進めたインシークレット(牝３歳、父アイアムインヴィンシブル、Ｊ.カミングス厩舎)が、さらに後方から追い上げたＧ１オークレープレート２着馬ロフティストライクに１馬身差をつけて優勝しました。インシークレットは昨年10月に同距離同コースで行われた３歳馬限定戦のＧ１クールモアスタッドＳ(芝1200㍍)以来となるＧ１・２勝目です。

●Ｇ１システマＳ～サトノアラジン産駒が優勝

３月11日にニュージーランドのプケコヘパーク競馬場で行われたＧ１システマＳ(２歳、芝1200㍍)は、Ｏ.ボッソン騎手が騎乗したサトノアラジン産駒のトウキョウタイクーン(騸２歳、Ｍ.ウォーカー厩舎)が２番手から直線で抜け出して２馬身半差で優勝。デビュー５連勝でＧ１初制覇を果たしました。サトノアラジンはこれまで４度(2018、19、21、22年)ニュージーランドでシャトル供用。産駒のＧ１勝ちは日本も含めてこれが初めてです。